

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成21年8月13日(2009.8.13)

【公表番号】特表2008-546900(P2008-546900A)

【公表日】平成20年12月25日(2008.12.25)

【年通号数】公開・登録公報2008-051

【出願番号】特願2008-519493(P2008-519493)

【国際特許分類】

C 08 L 101/12	(2006.01)
C 08 L 101/04	(2006.01)
C 08 F 16/30	(2006.01)
H 01 B 1/12	(2006.01)
H 01 L 51/50	(2006.01)

【F I】

C 08 L 101/12	
C 08 L 101/04	
C 08 F 16/30	
H 01 B 1/12	F
H 01 B 1/12	E
H 01 B 1/12	G
H 01 B 1/12	Z
H 05 B 33/14	A
H 05 B 33/22	D

【手続補正書】

【提出日】平成21年6月29日(2009.6.29)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

少なくとも1種の有機溶剤でぬらすことができるフッ素化酸ポリマーと混合状態にある少なくとも1種のドープ導電性ポリマーを含むことを特徴とするポリマー組成物。

【請求項2】

少なくとも1種の有機溶剤でぬらすことができるフッ素化酸ポリマーとブレンドされた少なくとも1種の導電性ポリマーを含むポリマー組成物の水性分散体であって、前記組成物が1.5~4のpHを有することを特徴とする水性分散体。

【請求項3】

少なくとも1種の有機溶剤でぬらすことができるフッ素化酸ポリマーとブレンドされた少なくとも1種のドープ導電性ポリマーを含むポリマー組成物を含む少なくとも1つの緩衝層を含むことを特徴とする電子素子。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0184

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0184】

明確さのために、個別の実施形態コンテクスト中に、本明細書に記載した本発明の一定の特色はまた、単一の実施形態中に組み合わせて提供され得ることは認識されるべきである。反対に、簡潔さのために、単一の実施形態のコンテクスト中に記載された本発明の種々の特色はまた、個別にまたはいずれかのサブコンビネーションで提供され得る。範囲で規定された値に対する言及は、その範囲内の各およびすべての値を含む。

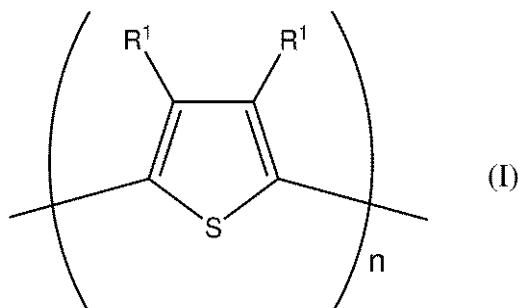
本発明は以下の実施の態様を含むものである。

1. 少なくとも 1 種の有機溶剤でぬらすことができるフッ素化酸ポリマーと混合状態にある少なくとも 1 種のドープ導電性ポリマーを含むことを特徴とするポリマー組成物。

2. 導電性ポリマーが、ポリチオフェン、ポリピロール、ポリアニリン、高分子縮合多環式ヘテロ芳香族、これらのコポリマー、およびこれらの組み合わせから選択されることを特徴とする前記 1. に記載の組成物。

3. ポリチオフェンが式 I

【化 1】



(式中、

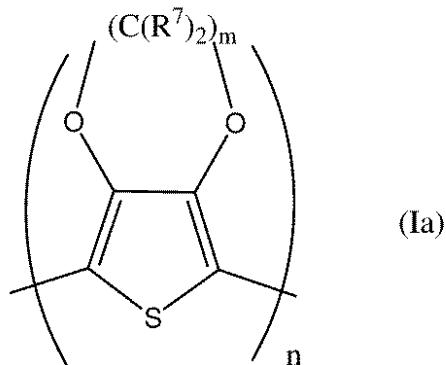
R<sup>1</sup> は、独立に、各存在で同一または異なるよう選択されると共に、水素、アルキル、アルケニル、アルコキシ、アルカノイル、アルキルチオ、アリールオキシ、アルキルチオアルキル、アルキルアリール、アリールアルキル、アミノ、アルキルアミノ、ジアルキルアミノ、アリール、アルキルスルフィニル、アルコキシアルキル、アルキルスルホニル、アリールチオ、アリールスルフィニル、アルコキシカルボニル、アリールスルホニル、アクリル酸、リン酸、ホスホン酸、ハロゲン、ニトロ、シアノ、ヒドロキシル、エポキシ、シラン、シロキサン、アルコール、ベンジル、カルボキシレート、エーテル、エーテルカルボキシレート、アミドスルホネート、エーテルスルホネート、エステルスルホネート、およびウレタンから選択され；または両方の R<sup>1</sup> 基は一緒になって、任意選択的に 1 つまたは複数の二価の窒素、硫黄または酸素原子を含んでもよい 3、4、5、6 または 7 員芳香族または脂環式環を完成させるアルキレンまたはアルケニレン鎖を形成してもよく、および

n は少なくとも約 4 である)

を有することを特徴とする前記 2. に記載の組成物。

4. ポリチオフェンが式 I (a)

## 【化2】

(式中、

R<sup>7</sup>は、各存在で同一または異なると共に、水素、アルキル、ヘテロアルキル、アルケニル、ヘテロアルケニル、アルコール、アミドスルホネート、ベンジル、カルボキシレート、エーテル、エーテルカルボキシレート、エーテルスルホネート、エステルスルホネート、およびウレタンから選択され、ただし、少なくとも1つのR<sup>7</sup>は水素ではなく、

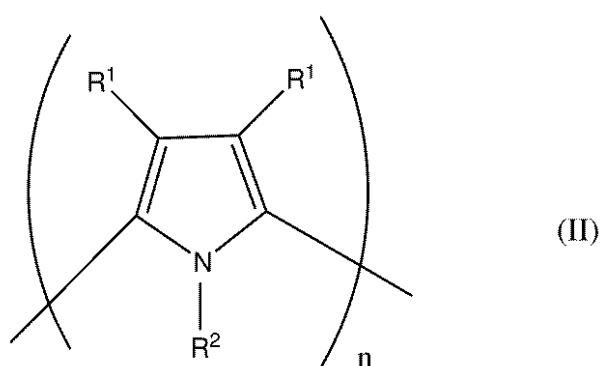
mは2または3であり、および

nは少なくとも約4である)

を有することを特徴とする前記2.に記載の組成物。

### 5. ポリピロールが式II

## 【化3】

(式II中、

nは少なくとも約4であり；

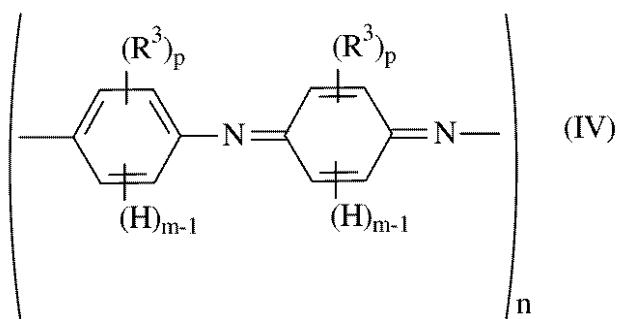
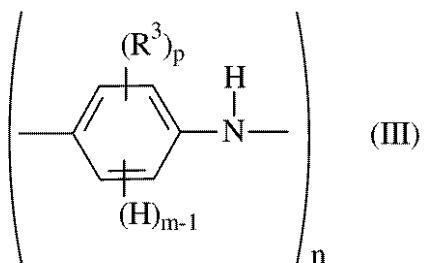
R<sup>1</sup>は、独立に、各存在で同一または異なるよう選択されると共に、水素、アルキル、アルケニル、アルコキシ、アルカノイル、アルキルチオ、アリールオキシ、アルキルチオアルキル、アルキルアリール、アリールアルキル、アミノ、アルキルアミノ、ジアルキルアミノ、アリール、アルキルスルフィニル、アルコキシアルキル、アルキルスルホニル、アリールチオ、アリールスルフィニル、アルコキカルボニル、アリールスルホニル、アクリル酸、リン酸、ホスホン酸、ハロゲン、ニトロ、シアノ、ヒドロキシル、エポキシ、シラン、シロキサン、アルコール、ベンジル、カルボキシレート、エーテル、アミドスルホネート、エーテルカルボキシレート、エーテルスルホネート、エステルスルホネート、およびウレタンから選択され；または両方のR<sup>1</sup>基は一緒になって、任意選択的に1つまたは複数の二価の窒素、硫黄または酸素原子を含んでもよい3、4、5、6または7員芳香族または脂環式環を完成させるアルキレンまたはアルケニレン鎖を形成してもよく；および

R<sup>2</sup>は、独立に、各存在で同一または異なるよう選択されると共に、水素、アルキル、アルケニル、アリール、アルカノイル、アルキルチオアルキル、アルキルアリール、アリールアルキル、アミノ、エポキシ、シラン、シロキサン、アルコール、ベンジル、カルボキ

シレート、エーテル、エーテルカルボキシレート、エーテルスルホネート、エステルスルホネート、およびウレタンから選択される)

を有することを特徴とする前記2.に記載の組成物。

6. ポリアニリンが、式III、式IV、およびこれらの組み合わせ  
【化4】



(式中、

nは少なくとも約4であり；

pは0～4の整数であり；

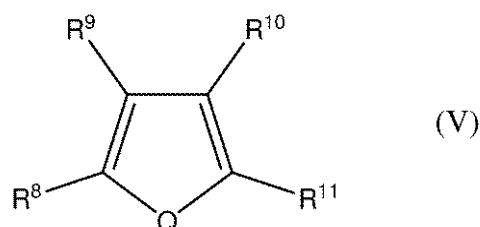
mは1～5の整数であり、ただし、p+m=5であり；および

R<sup>3</sup>は、独立に、各存在で同一または異なるよう選択されると共に、アルキル、アルケニル、アルコキシ、シクロアルキル、シクロアルケニル、アルカノイル、アルキルチオ、アリールオキシ、アルキルチオアルキル、アルキルアリール、アリールアルキル、アミノ、アルキルアミノ、ジアルキルアミノ、アリール、アルキルスルフィニル、アルコキシアルキル、アルキルスルホニル、アリールチオ、アリールスルフィニル、アルコキカルボニル、アリールスルホニル、カルボン酸、ハロゲン、シアノ、または1つまたは複数のスルホン酸、カルボン酸、ハロ、ニトロ、シアノまたはエポキシ部分で置換されたアルキルから選択され；またはいずれか2つのR<sup>3</sup>基は一緒になって、任意選択的に1つまたは複数の二価の窒素、硫黄または酸素原子を含んでもよい3、4、5、6または7員芳香族または脂環式環を完成させるアルキレンまたはアルケニレン鎖を形成してもよい)

から選択される式を有することを特徴とする前記2.に記載の組成物。

7. 高分子縮合多環式ヘテロ芳香族が式V

【化5】



(式中、

QはSまたはNHであり；

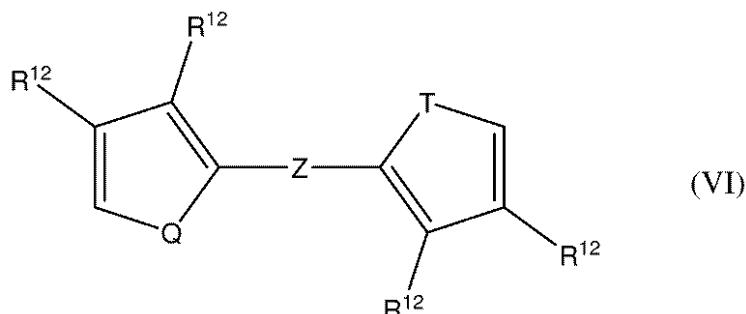
R<sup>8</sup>、R<sup>9</sup>、R<sup>10</sup>、およびR<sup>11</sup>は、独立に、各存在で同一または異なるよう選択されると共に、水素、アルキル、アルケニル、アルコキシ、アルカノイル、アルキルチオ、アリールオキシ、アルキルチオアルキル、アルキルアリール、アリールアルキル、アミノ、アルキルアミノ、ジアルキルアミノ、アリール、アルキルスルフィニル、アルコキシアルキル、アルキルスルホニル、アリールチオ、アリールスルフィニル、アルコキシカルボニル、アリールスルホニル、アクリル酸、リン酸、ホスホン酸、ハロゲン、ニトロ、シアノ、ヒドロキシル、エポキシ、シラン、シロキサン、アルコール、ベンジル、カルボキシレート、エーテル、エーテルカルボキシレート、アミドスルホネート、エーテルスルホネート、エステルスルホネート、およびウレタンから選択され；および

R<sup>8</sup>およびR<sup>9</sup>、R<sup>9</sup>およびR<sup>10</sup>、ならびにR<sup>10</sup>およびR<sup>11</sup>の少なくとも1つは一緒にあって、任意選択的に1つまたは複数の二価の窒素、硫黄または酸素原子を含んでもよい5または6員芳香族環を完成させるアルケニレン鎖を形成する）

を有するモノマーから誘導されることを特徴とする前記2.に記載の組成物。

8. 導電性ポリマーが式VI

【化6】



(式中、

QはSまたはNR<sup>6</sup>であり；

Tは、S、NR<sup>6</sup>、O、SiR<sup>6</sup><sub>2</sub>、Se、およびPR<sup>6</sup>から選択され；

Zは、アルケニレン、アリーレン、およびヘテロアリーレンから選択され；

R<sup>6</sup>は水素またはアルキルであり；

R<sup>12</sup>は、各存在で同一または異なると共に、水素、アルキル、アルケニル、アルコキシ、アルカノイル、アルキルチオ、アリールオキシ、アルキルチオアルキル、アルキルアリール、アリールアルキル、アミノ、アルキルアミノ、ジアルキルアミノ、アリール、アルキルスルフィニル、アルコキシアルキル、アルキルスルホニル、アリールチオ、アリールスルフィニル、アルコキシカルボニル、アリールスルホニル、アクリル酸、リン酸、ホスホン酸、ハロゲン、ニトロ、シアノ、ヒドロキシル、エポキシ、シラン、シロキサン、アルコール、ベンジル、カルボキシレート、エーテル、エーテルカルボキシレート、アミドスルホネート、エーテルスルホネート、エステルスルホネート、およびウレタンから選択される）

を有する前駆体モノマーから誘導されることを特徴とする前記2.に記載の組成物。

9. 導電性ポリマーが、ポリ(3,4-エチレンジオキシチオフェン)、非置換ポリピロール、非置換ポリアニリン、ポリ(チエノ(2,3-b)チオフェン)、ポリ(チエノ(3,2-b)チオフェン)、およびポリ(チエノ(3,4-b)チオフェン)から選択されることを特徴とする前記1.に記載の組成物。

10. ドープ導電性ポリマーが、非フッ素化高分子酸ドーパントを含むことを特徴とする前記1.に記載の組成物。

11. ドープ導電性ポリマーが、高分子スルホン酸を含むことを特徴とする前記1.に記載の組成物。

12. 有機溶剤でぬらすことができるフッ素化酸ポリマーが、カルボン酸基、スルホン酸

基、スルホンイミド基、リン酸基、ホスホン酸基、およびこれらの組み合わせから選択される酸性基を含むことを特徴とする前記1.に記載の組成物。

13. 有機溶剤でぬらすことができるフッ素化酸ポリマーが、ポリオレフィン、ポリアクリレート、ポリメタクリレート、ポリイミド、ポリアミド、ポリアラミド、ポリアクリルアミド、およびこれらのコポリマーから選択される主鎖を含むことを特徴とする前記1.に記載の組成物。

14. 有機物でぬらすことができるフッ素化酸ポリマーが、アルキル基、アルコキシ基、アミド基、エーテル基、およびこれらの組み合わせから選択されるフッ素化側鎖を含むことを特徴とする前記1.に記載の組成物。

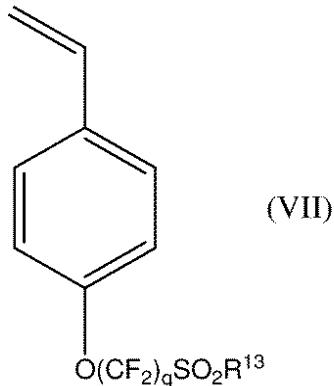
15. 有機溶剤でぬらすことができるフッ素化酸ポリマーが、フッ素化エーテルスルホネート基およびフッ素化エーテルスルホンイミド基から選択されるフッ素化オレフィン主鎖および側基を含むことを特徴とする前記1.に記載の組成物。

16. 有機溶剤でぬらすことができるフッ素化酸ポリマーが、  
1,1-ジフルオロエチレンおよび2-(2,2-ジフルオロ-2-(トリフルオロメチル)アリルオキシ)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホン酸のコポリマー；  
エチレンおよび2-(2-(1,2,2-トリフルオロビニルオキシ)-1,1,2,3,3,3-ヘキサフルオロプロポキシ)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホン酸のコポリマー；およびこれらの組み合わせから選択されることを特徴とする前記1.に記載の組成物。

17. 有機溶剤でぬらすことができるフッ素化酸ポリマーが、フッ素化および部分スルホン化アリーレンエーテルスルホンを含むことを特徴とする前記1.に記載の組成物。

18. 有機溶剤でぬらすことができるフッ素化酸ポリマーが式VIIおよび式VIII

【化7】



(式中、

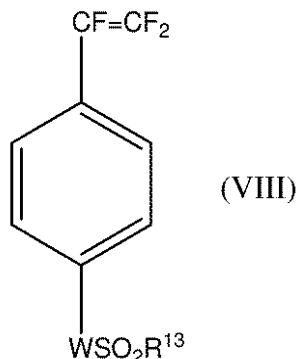
qは1～5の整数であり、

R<sup>1~3</sup>はOHまたはNHR<sup>1~4</sup>であり、および

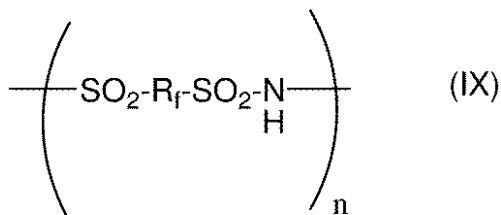
R<sup>1~4</sup>は、アルキル、フルオロアルキル、スルホニルアルキル、またはスルホニルフルオロアルキルである)；

および式VIII

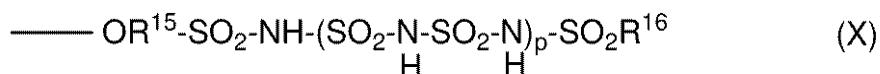
## 【化8】

(式中、Wは、(CF<sub>2</sub>)<sub>q</sub>、O(CF<sub>2</sub>)<sub>q</sub>、S(CF<sub>2</sub>)<sub>q</sub>、(CF<sub>2</sub>)<sub>q</sub>O(CF<sub>2</sub>)<sub>r</sub>から選択され、qおよびrは、独立に1～5の整数であり、R<sup>13</sup>はOHまたはNHR<sup>14</sup>であり、およびR<sup>14</sup>は、アルキル、フルオロアルキル、スルホニルアルキル、またはスルホニルフルオロアルキルである)から選択される式を有する少なくとも1種のモノマーから誘導されることを特徴とする前記1.に記載の組成物。19. 有機溶剤でぬらすことができるフッ素化酸ポリマーが式IX

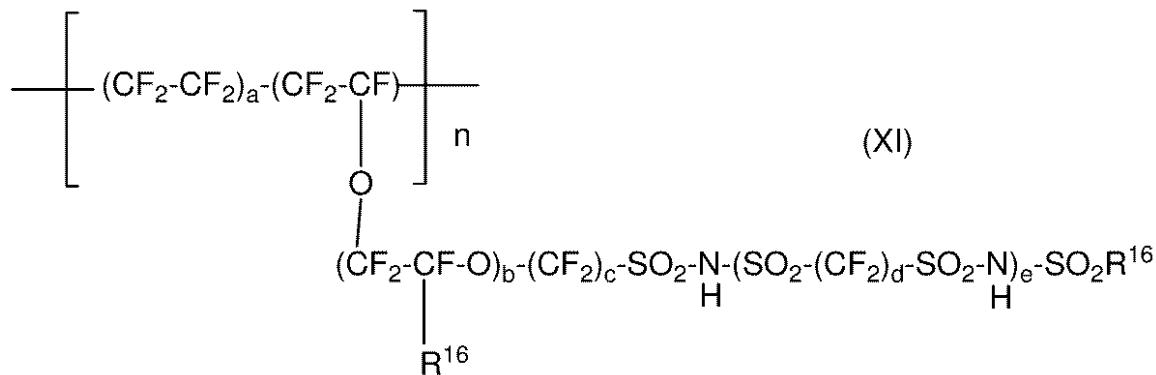
## 【化9】

(式中、R<sub>f</sub>は、フッ素化アルキレン、フッ素化ヘテロアルキレン、フッ素化アリーレン、およびフッ素化ヘテロアリーレンから選択され；およびnは少なくとも20である)を有することを特徴とする前記1.に記載の組成物。20. 有機物でぬらすことができるフッ素化酸ポリマーが式X

## 【化10】

(式中、R<sup>15</sup>は、フッ素化アルキレン基またはフッ素化ヘテロアルキレン基であり；R<sup>16</sup>は、フッ素化アルキルまたはフッ素化アリール基であり；およびpは、0または1～4の整数である)を有する側鎖を含むフッ素化ポリマー主鎖を含むことを特徴とする前記1.に記載の組成物。21. 有機溶剤でぬらすことができるフッ素化酸ポリマーが式XI

【化11】



(式中、

R<sup>16</sup>は、フッ素化アルキルまたはフッ素化アリール基であり；a、b、c、dおよびeは、それぞれ独立に0または1～3の整数であり；およびnは少なくとも4である）を有することを特徴とする前記1.に記載の組成物。22. 有機溶剤でぬらすことができるフッ素化酸ポリマーが、接触角40°以下でフェニルヘキサンによってぬらすことができるフィルムを形成することを特徴とする前記1.に記載の組成物。23. フッ素化酸ポリマーが、接触角35°以下でフェニルヘキサンによってぬらすことができるフィルムを形成することを特徴とする前記9.に記載の組成物。24. 少なくとも1種の有機溶剤でぬらすことができるフッ素化酸ポリマーとブレンドされた少なくとも1種の導電性ポリマーを含むポリマー組成物の水性分散体であって、前記組成物が1.5～4のpHを有することを特徴とする水性分散体。25. pHが2～3であることを特徴とする前記24.に記載の分散体。26. 少なくとも1種の有機溶剤でぬらすことができるフッ素化酸ポリマーとブレンドされた少なくとも1種のドープ導電性ポリマーを含むポリマー組成物を含む少なくとも1つの緩衝層を含むことを特徴とする電子素子。27. 導電性ポリマーが、ポリチオフェン、ポリピロール、ポリアニリン、高分子縮合多環式ヘテロ芳香族、これらのコポリマー、およびこれらの組み合わせから選択されることを特徴とする前記26.に記載の素子。28. 導電性ポリマーが、ポリ(3,4-エチレンジオキシチオフェン)、非置換ポリピロール、非置換ポリアニリン、ポリ(チエノ(2,3-b)チオフェン)、ポリ(チエノ(3,2-b)チオフェン)、およびポリ(チエノ(3,4-b)チオフェン)から選択されることを特徴とする前記26.に記載の素子。29. 有機溶剤でぬらすことができるフッ素化酸ポリマーが、カルボン酸基、スルホン酸基、スルホンイミド基、リン酸基、ホスホン酸基、およびこれらの組み合わせから選択される酸性基を含むことを特徴とする前記26.に記載の素子。30. 有機溶剤でぬらすことができるフッ素化スルホン酸ポリマーが、ポリオレフィン、ポリアクリレート、ポリメタクリレート、ポリイミド、ポリアミド、ポリアラミド、ポリアクリルアミド、およびこれらのコポリマーから選択される主鎖を含むことを特徴とする前記26.に記載の素子。31. 有機溶剤でぬらすことができるフッ素化スルホン酸ポリマーが、フッ素化オレフィン主鎖および側鎖フッ素化エーテルスルホネート基を含むことを特徴とする前記26.に記載の素子。32. 有機溶剤でぬらすことができるフッ素化スルホン酸ポリマーが、1,1-ジフルオロエチレンおよび2-(2,2-ジフルオロ-2-(トリフルオロメチル)アリルオキシ)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホン酸のコポリマー；

エチレンおよび2-(2-(1,2,2-トリフルオロビニルオキシ)-1,1,2,3,3-ヘキサフルオロプロポキシ)-1,1,2,2-テトラフルオロエタンスルホン酸のコポリマー；およびこれらの組み合わせから選択されることを特徴とする前記26.に記載の素子。

33. 有機溶剤でぬらすことができるフッ素化酸ポリマーが、フッ素化および部分スルホン化アリーレンエーテルスルホンを含むことを特徴とする前記26.に記載の素子。